

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：建築学科

資格：講師

氏名：森重 幸子

研究分野	研究内容のキーワード
建築計画、建築設計、住宅計画、地域計画、建築社会システム	居住空間、町家、細街路、歴史的市街地、建築関連法制度
学位	最終学歴
博士（工学）	京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 建築作品のプレゼンテーション課題における参加型授業の取り組みと評価のフィードバック	2017年5月～2017年7日	初期演習において、各自が選定した建築作品についてpptを用いたプレゼンテーションを行う課題を行い、他の学生による質疑を行った。その際、専用のメモ用紙を作成し、内容のメモを取った上で感想を書くことで集中して発表を聞くよう工夫した。 また、プレゼンテーションの良かった点とより改善できる点についての講評を次回の授業時に各自に伝え、今後の改善につながるようにした。
2. フィールドワーク I における他学生のスケッチの参考事例の紹介	2017年4月～現在	フィールドワークで実際の建築を見学に行った際にはレポートとしてスケッチの提出を求めている。 1年生のフィールドワーク I では、まだ短時間でのスケッチの経験が少ないことから、他学生のレポートを互いに見る機会を設けるとともに、上級生の例の紹介も行い、上達の契機となるようにしている。
3. 建築設計演習における建築設計および研究実績を活かした参考事例の紹介	2016年10月～現在	建築設計演習IVの集合住宅の設計課題において、自身が設計した住宅および集合住宅を事例として取り挙げ、住宅の設計において考えなければいけないポイントを具体的に説明した。それにより、学生が課題をより身近に捉えられるようになるとともに、質問など対話が生まれやすくなるよう工夫している。
4. 演習における講習会の実施	2015年9月～現在	建築設計演習、および空間表現演習において、製作した作品を受講者全員が発表する講習会を行い、学生相互の質疑討論、および教員による講評を行っている。自身の作品に対する講評とともに、他作品への講評も聞くことにより演習課題に関するより広い範囲での理解度を高めることができる。
5. 演習における成果物の展示	2015年9月～現在	建築設計演習では、全受講生が最新の成果物を建築スタジオ内に展示し、いつでも他学生や他学年の図面および模型を見ることができるようにしている。 他学生の作品を見ることにより自身の参考にすることができるとともに、課題へ取り組む意欲を高めることができる。
6. 授業内容の小テストと質問に対するフィードバック	2015年11月～現在	建築設計論IIの講義において、2回に1度の程度で授業内容に関する小テストを行い、学生の理解度を随時把握するようにしている。 また、毎回コメント用紙を配付しその日の授業内容に関する感想を求め、質問が書かれていた場合は次回の授業の中で紹介し、関連する内容を補足説明して理解度を高めるように工夫している。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 京都市景観・まちづくり大学「京町家再生セミナー」における講義	2016年9月15日	京都市景観・まちづくりセンターが主催する景観・まちづくり大学「京町家再生セミナー」において、「京の路地（ろうじ）と京町家―歴史と安全を引き継ぐために―」と題する講義を行った。
2. 神戸大学大学院工学研究科持続的住環境創成講座における出張講義	2015年11月25日	神戸大学大学院工学研究科持続的住環境創成（積水ハウス）寄附講座が主催する連続セミナーの第18回目SLED LECTURE#18として、「歴史的市街地の細街路沿いの居住の現在―京都の路地とまちづくり―」と題する出張講義を行った。
3. 京都建築専門学校 第27回市民講座2014における講義	2014年12月13日	学校法人京都建築学園京都建築専門学校が主催する市民講座において、歴史的市街地における地域の歴史文化の文脈に適合した集合住宅の設計事例である自身の設計実績を紹介する「平成の京町家・東山八坂通プロジェクト」と題した講義を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士（第322117号）	2006年2月20日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 都市住宅学会博士論文コンテスト優秀賞	2017年5月31日	公益社団法人都市住宅学会が主催する博士論文コンテストにおいて、博士学位論文「京都市都心部の細街路沿いのまちなみの維持・継承に関する研究」によって優秀賞を受賞。
2. 都市住宅学会業績賞	2015年	設計に携わった「平成の京町家 東山八坂通」が公益社団法人都市住宅学会2015年度業績賞を受賞。
3. 日本不動産学会業績賞受賞	2014年	設計に携わった「平成の京町家 東山八坂通」が公益社団法人日本不動産学会2014年度業績賞を受賞。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 木の住まい	共	2014年8月	日本ぐらし館	2011～2013年度にわたって行った「日本ぐらし館木の文化研究会」の活動をもとに、現在の木造住宅をめぐる諸問題に関するレポートとともに、これからの「木の住まい」への提言を行っている。 担当部分：第Ⅲ部木の住まいのつくり手の今と今後「工務店をとりまく背景」pp. 166-177
2. RURAL AND URBAN SUSTAINABILITY GOVERNANCE	共	2014年4月	United Nations University Press	都市および農村の持続可能性をテーマに、建築・都市計画と経済学の研究者がそれぞれのフィールドをもとにした知見を報告している。 担当部分：Part3 Case Studies-Urban Sustainability Chapter13 'Environmental governance of dwellings of a small-scale community along a historical alley in Kyoto City', pp. 216-224
3. 現代集合住宅の「ひと・時間・空間」の計画	共	2010年9月	彰国社	集合住宅の豊富な事例を紹介し、研究者による調査データを交えて解説を行うもの。学生のみならず、実務者が企画・設計を行う際の参考文献としても意図されている。 担当部分：07住戸・住棟の再生と活用 7-4「歴史的建築物のリノベーション 定期借地権付きコーポラティブ方式による再生-求道学舎リノベーション」pp. 92-93
2 学位論文				
1. 京都市都心部の細街路沿いのまちなみの維持・継承に関する研究	単	2017年3月	京都大学博士学位論文	京都市都心部に多数存在する細街路沿いのまちなみの維持・継承のための方策について知見を得ることを目的とし、細街路と町家の分布の関係性の分析、および細街路沿いのまちなみの維持・継承における課題の把握を行っている。結論として、優先的に対象とすべき細街路に関する考え方や、特に大きな問題である高層建築物と細街路の関係についてなどの具体的な方策を示している。
2. コモンズの視点から見たマスのハウジング期公的団地の再生に関する研究 市街地の住環境におけるコモンズ概念の検討を通じて	単	2002年2月	京都大学大学院修士論文	共同利用資源の持続的な利用と管理についての知見であるコモンズ論を市街地の住環境に適用する理論的な検討を行った上で、マスのハウジング期の公的団地のオープンスペースの管理における課題をコモンズ論の観点から分析している。
3 学術論文				
1. 選べる路地のまちづくり—京都市における路地・いえ再生の多様な選択肢の展開—	単	2017年9月	2017年度日本建築学会大会（中国）都市計画部門研究懇談会資料「インナーコミュニティの再生とその多様なアプローチ」pp. 33-36	京都市で近年精力的に進められている細街路に対する施策のこれまでの流れを概観するとともに、施策を体系的に整理して示している。個々に状況の異なる問題を抱えた細街路が大量に存在する現状に対して多様な施策が展開されていることを評価した上で、今後それらが有効に利用されるために必要な事柄について指摘している。
2. 「歴史細街路」沿いのまちなみの維持・継承における課題—京都市都心部の細街路沿いのまちづくり活動を通して—（査読付）	共	2017年4月	日本建築学会計画系論文 第82巻 第734号 pp. 941-951	京都市都心部の繁華な地区に位置し歴史的なまちなみを見せる細街路沿いの町のまちづくり活動を対象として実施した長期的な参与観察調査を通して、細街路沿いのまちなみの維持・継承を阻害する要因について分析を行っている。 論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄
3. 京都市都心部における細街路の分布と町家の分布の関係性の分析—元学区単位の分析と仁和学区・有隣学区におけるケーススタディー（査読付）	共	2016年10月	日本建築学会計画系論文 第81巻 第728号 pp. 2095-2103	京都市都心部における細街路と町家の分布の重複関係を分析し、細街路の多い地区に町家も多く存在することを示している。特に利便性の高い中心部においては細街路沿いに町家が多く存在していることを明らかにしている。 論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
4. 京都市都心部における地蔵盆の運営実態と参加者の多様性—レジリエントなコミュニティ形成に果たす地蔵盆の役割に関する研究—（査読付）	共	2015年8月	日本建築学会計画系論文 第80巻 第714号 pp. 1833-1842	京都市都心部で行われている地蔵盆および町内会運営の実態調査を行い、地蔵盆が新たな住まい手にとって地域活動への参加の契機となっていることを検証し、コミュニティの多様性や冗長性を促進する可能性を持っていることを示している。 共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：前田昌弘、高田光雄、森重幸子、西野克裕
5. 京都市都心部の幹線道路沿いの細街路と高層建築物の関係（査読付）	共	2015年7月	日本建築学会計画系論文 第80巻 第713号 pp. 1605-1613	細街路沿いの歴史的な景観の維持保全に関する知見を与えることを目的に、京都市都心部の幹線道路沿いに位置する細街路に高層建築物が立地する事例を悉皆調査し、細街路と高層建築物の関係性の分析を行っている。その結果、細街路側からの形態規制の必要性を指摘している。 論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄、前田昌弘、大森聡子
6. 京町家の住み継ぎを支援する承継システムに関する研究—所有者の意思を尊重する承継支援型民事信託の試行的実施—（査読付）	共	2015年	住総研研究論文集 第4号 2号 pp. 49-59	自身が所有および居住する京町家について、将来の引き継ぎ手が決まっていないことを不安に思う所有者の協力を得て、民事信託による承継支援システムについて検討を行っている。現在の民法下では難しいパブリックトラストを構想し、その必要性を指摘している。 共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：高田光雄、森重幸子、生川慶一郎
7. 住まい手が主体的に行う京町家の公開の実態と課題—生活文化を含めた京町家の保全・再生に関する研究（査読付）	共	2012年2月	日本建築学会計画系論文 第77巻 第672号 pp. 419-426	住まい手自身が関わって公開事業を行っている大型の京町家を対象に、運営する住まい手への詳細なヒアリング調査を行い、公開事業の実態や、公開に至るまでの経緯を明らかにしている。その上で、各家において蓄積されてきた生活文化の維持保全の方法という視点からの課題を明らかにしている。 共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：鈴江悠子、高田光雄、森重幸子、生川慶一郎
8. ネパールにおける共同的空間管理システムに関する研究：仏教僧院を起源とする中庭型集住体を対象として（査読付）	共	2012年	住総研研究論文集 第3号 9号 pp. 121-132	ネパール・カトマンズ盆地の世界遺産都市であるバタン旧市街地の複数の中庭が含まれる街区を対象とし、所有・利用・管理の実態とその主体関係の分析を行っている。所有と利用と管理が完全に一致したシステムよりも、複数の主体が多層的に関わる伝統的な共同的空間管理システムのほうが状況の変化に柔軟に対応できることを明らかにしている。 共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：サキヤラタ、高田光雄、森重幸子
9. Urban Renewal and Sustainability of Historical Urban Center - Case Study on Urban Center of Kyoto-	共	2009年4月	12th International Seminar de Forum UNESCO - University and Heritage Reference No.1 07	京都市都心部の街区の更新の状況を、町家の残存状況、建物用途、オープンスペースの分布等から示している。その上で、2007年9月に施行された新景観政策の可能性と課題について検討を行っている。 共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：MORISHIGE Sachiko, TAKADA Mitsuo, KOURA Hisako
10. 接道条件からみた歴史的市街地の持続可能性—「再建築不可」敷地の分布状況の分析を通して—（査読付）	共	2009年12月	日本建築学会住宅系研究論文報告集 4 pp. 123-130	京都市では袋路は建築基準法上の道路ではないとされることから、袋路にのみ面する敷地は「再建築不可」と呼ばれ建築行為が原則禁止となり多くの課題を抱えている。ここでは再建築不可敷地の分布傾向と具体的な立地の実態を明らかにし、課題を示している。 論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊
11. 京都市都心部の袋路空間におけるコミュニティの実態と居住者の満足度—袋路空間内外の付き合い状況の分析を通して—（査読付）	共	2008年12月	日本建築学会住宅系研究論文報告集 3 pp. 201-208	袋路が集中する西陣地区を対象に、袋路沿いの居住者へのアンケート調査を行っている。袋路居住者同士はほぼ挨拶をする関係にあり、近所付き合いの状況に高い満足度を示している。一方で、付き合いは袋路単位で閉じているわけではなく、袋路外にも広がっていることを明らかにしている。 論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊、繪本啓太、小林彩子、柴崎耕平
12. 再生集合住宅の居住者による入居後の居住性評価—求道学舎リノベーションを対象として—（査読付）	共	2008年12月	日本建築学会住宅系研究論文報告集 3 pp. 239-246	1926年に竣工した歴史的建築物である求道学舎（武田五一設計、東京都文京区）は2006年にリノベーションされて集合住宅となっている。求道学舎の現居住者を対象に、入居後の居住性についてアンケートおよびヒアリングを行い、建物性能について個別の項目では不満があるものの、全体として高い満足度が得られていることを明らかにしている。 論文全般を担当、著者：高田光雄、森重幸子、丸川景子、李容圭、柴崎耕平、土井脩史
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Tキリスト教会	共	2016年8月	日本建築学会大会（九	閑静な住宅地に立つプロテスタントのキリスト教会

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
2. 承継支援型民事信託の汎用モデルの検討 京町家の住み継ぎを支援する承継システムに関する研究その2	共	2016年8月	州) 学術講演梗概集 (建築デザイン) p. 288-289 日本建築学会大会 (九州) 学術講演梗概集 (建築社会システム) pp. 201-202	新築工事の内容とデザインについて報告している。論文全体を担当、著者：森重幸子、朽木順綱
3. 所有者の意思を尊重する承継支援型民事信託の試行的実施—京町家の住み継ぎを支援する承継システムに関する研究その1—	共	2015年9月	日本建築学会大会 (関東) 学術講演梗概集 (都市計画) pp. 187-188	京町家の空き家化や老朽化、および相続を契機とした解体が問題となっていることを背景に、自身の所有する京町家を次代に残したいと願う京町家所有者の協力を得て、適切な後継者が見つからない段階での対策を具体的に検討し、民事信託を利用した仕組みの提案および実証実験を行って課題を報告している。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：生川慶一郎、高田光雄、森重幸子
4. 岡山県瀬戸内市牛窓地区における木造住宅の住み継ぎに関する研究—住み継ぎを実践する居住者へのインタビュー調査を通して—	共	2015年9月	日本建築学会大会 (関東) 学術講演梗概集 (農村計画) pp. 103-104	歴史的な木造住宅のまちなみを残す岡山県瀬戸内市牛窓地区において、居住者へのインタビュー調査を行い、木造住宅の住み継ぎの経緯と実態を報告している。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：藤田麻由実、前田昌弘、高田光雄、森重幸子
5. 細街路沿いの家屋の空き家化の状況—京都市都心部における細街路の現状その3—	共	2015年9月	日本建築学会 (関東) 学術講演梗概集 (都市計画) pp. 643-644	京都市都心部の有隣学区内における空き家の悉皆調査を行い、空き家の位置と細街路の関係性について分析を行っている。空き家は細街路沿いの多く存在しているものの、空き家の無い細街路もあり、特定の細街路に集中している現状を明らかにしている。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：大森聡子、森重幸子、高田光雄、前田昌弘
6. 京都市都心部における細街路の利用者・所有者の意識	共	2015年9月	日本建築学会大会 (関東) 学術講演梗概集 (建築計画) pp. 1311-1314	京都市都心部の有隣学区内の細街路沿いの居住者または細街路沿いの土地家屋の所有者を対象としたアンケート調査を行い、将来の展望や希望する行政施策、および現在の問題点を明らかにしている。論文全体を担当、著者：森重幸子、高田光雄、前田昌弘、大森聡子
7. 韓屋建築家の自邸と彼の作品に見る伝統的生活文化の現代的継承—韓国における伝統的木造住宅の現代的価値に関する検証 その1—	共	2014年8月	日本建築学会大会 (近畿) 学術講演梗概集E-1分冊 (建築計画) pp. 983-984	韓国における伝統的木造住宅である韓屋の再生事例である住宅2件の住み方調査を行い、主にチェ(住棟)とマダン(庭)との関係性に着目して伝統的な生活文化の保全状況について分析を行っている。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：金海梨、高田光雄、森重幸子
8. レジリエントなコミュニティの形成と地蔵盆の関係—京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス向上に関する研究 その4—	共	2014年8月	日本建築学会大会 (近畿) 学術講演梗概集F-1分冊 (都市計画) pp. 237-238	京都市都心部で広く行われている伝統的な地域行事である地蔵盆を対象とし、地蔵盆が地域運営に果たす役割の検討から、地域コミュニティのレジリエンスの向上の可能性について考察している。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：藤田麻由実、高田光雄、前田昌弘、森重幸子、西野克裕、山崎圭史
9. 田の字地区内の細街路の属性—京都市都心部における細街路の現状その1—	共	2014年8月	日本建築学会大会 (近畿) 学術講演梗概集 F-1分冊 (都市計画) pp. 1115-1116	京都市の中心部である田の字地区に現存する細街路の悉皆調査を行い現状を整理したもの。細街路を通り抜けと袋路に大別し、さらに形状による分類および幅員の割合などから、中心部に存在する細街路の特徴を明らかにしている。論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄、前田昌弘、大森聡子他5名
10. 田の字地区内の2006年以降に消滅した細街路—京都市都心部における細街路の現状その2—	共	2014年8月	日本建築学会大会 (近畿) 学術講演梗概集 F-1分冊 (都市計画) pp. 1117-1118	京都市都心部の田の字地区内に存在する細街路のうち、近年消滅したものについて調査を行い、従前と現状の実態を把握し、消滅のメカニズムについて分析を行っている。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：大森聡子、森重幸子、高田光雄、前田昌弘、他5名
11. 行事運営への関わり方に着目した地蔵盆の役割—京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス向上に関する研究 その3—	共	2014年8月	日本建築学会大会 (近畿) 学術講演梗概集F-1分冊 (都市計画) pp. 235-236	京都市都心部で広く行われている伝統的な地域行事である地蔵盆を対象とし、町内会の参加者と地蔵盆の参加者の実態調査から、地蔵盆が地域運営に果たす役割の検討を行っている。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：西野克裕、高田光雄、前田昌弘、森重幸子、山崎圭史
12. 地蔵盆の運営実態とその継続要因の考察：京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス向上に関する研究 その1	共	2013年8月	日本建築学会大会 (北海道) 学術講演梗概集、F-1分冊 (都市計画) pp. 787-788	都心部のコミュニティと地域運営に関する知見を得るため、京都で広く行われている地蔵盆に着目し、都心部の3学区合計55町内の地蔵盆の運営実態の調査を行った。8割以上の町内で地蔵盆を開催してお

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. 平成の京町家・市街地型集合住宅団地K町プロジェクト その1	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集、G-1分冊（建築デザイン） pp. 28-29	り、多様な行事が行われていることを明らかにしている。 共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：前田昌弘、高田光雄、森重幸子、西野克裕 著者らが設計を担当した歴史的な市街地における8戸の集合住宅団地の計画プロジェクトについて、配置計画を決定するまでの検討のプロセスを報告したもの。町家が立ち並ぶ密集した市街地において開発行為ができない条件のもとでの配置計画を検討している。
14. 京都市都心部における不動産所有権の権利実態：相続承継問題から見た京町家の保全に関する研究 その3	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集 F-1分冊（都市計画） pp. 471-472	共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：村田真悟、森重幸子、高田光雄、安枝英俊、土井脩史 町家が解体される理由の一つとして、相続を契機に住み継ぎが行われず解体売却が選択されるという実態がある。所有権が共有状態にある場合や登記が適切に行われていないなどといったことがその背景にあることから、ある特定地区の家屋の所有権の悉皆調査を行って実態を明らかにし傾向を分析している。
15. 平成の京町家・市街地型集合住宅団地K町プロジェクト その2	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集G-1分冊（建築デザイン） pp. 30-31	共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：生川慶一郎、森重幸子、高田光雄 著者らが設計を担当した歴史的な市街地における8戸の集合住宅団地の計画プロジェクトについて、基本設計の考え方を報告した。京都市の環境配慮型住宅のローカルモデルである「平成の京町家」というコンセプトを発展させ、集合として周辺街区に適応した計画を提案している。
16. 理論的検討を通じた住宅への愛着形成過程のモデル化	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集E-1分冊（建築計画） pp. 707-708	論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄、安枝英俊、村田真悟、土井脩史 住宅が長く住み継がれるためには性能面で満足されるだけでなく居住者に愛着をもって住まわれる必要がある。ここでは、本来は母子関係を基礎とする心理学概念である愛着概念を、住まい手と住宅との関係に適用する際の理論的な検討を行っている。
17. 地蔵盆が地域のレジリエンス向上に果たす役割：京都市都心部における地蔵盆の運営と地域のレジリエンス向上に関する研究 その2	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集F-1分冊（都市計画） pp. 789-790	共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：安福賢太郎、高田光雄、森重幸子 コミュニティ形成上の課題となりやすいマンション居住者の地蔵盆への関わりを分析している。マンション居住者への声かけがなされていない場合でも、当日の飛び入り参加が見られることから、マンション居住者にとって地域参加のきっかけとなっていることを明らかにしている。
18. バリ・ウブドの家：裸形の建築への廻行として	共	2013年8月	日本建築学会大会（北海道）学術講演梗概集G-1分冊（建築デザイン） pp. 2-3	共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：西野克裕、前田昌弘、高田光雄、森重幸子 著者らが設計を行ったインドネシア・バリ島の住宅について、現地の気候や文化的背景に基づいた設計内容について報告している。
19. 京町家の承継に対する所有者の意識：相続承継問題から見た京町家の保全に関する研究 その1	共	2012年9月	日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 F-1分冊（建築社会システム） pp. 349-350	共同設計のため担当部分の抽出は困難、著者：朽木順綱、森重幸子 良好に管理されまちなみに寄与していると考えられる京町家の所有者を対象に、相続や次世代への承継についてのアンケート調査を実施。町家の保全意向や、引き継ぐ相手が決まっている割合が比較的高いものに対して、残したいが難しいと考えている所有者も多いことを明らかにしている。
20. 堀川団地'やわらかい'まちづくり再生ビジョン その1	共	2012年9月	日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 G-1分冊（建築デザイン） pp. 66-67	共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：鈴木悠子、高田光雄、森重幸子、生川慶一郎 1950～53年に建設されたRC造3階建の市街地型公的団地である堀川団地の再生について検討し、地域のまちづくりの一部としての団地再生の方向性を、5つの柱によって具体的に提案、1つめの柱である「シナリオ・アプローチ」によって描く再生のプロセスを解説している。
21. 堀川団地'やわらかい'まちづくり再生ビジョン その2	共	2012年9月	日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 G-1分冊（建築デザイン） pp. 68-69	共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：生川慶一郎、高田光雄、安枝英俊、森重幸子、土井脩史、宮野順子、石田洋輝 堀川団地の再生の方向性として提案する「再生型スケルトン・インフィル」「新しい福祉の地産地消」「堀川京極の再生」「まちづくり会社」についてそれぞれ内容を提案している。
22. ネパール、パタン旧市街地の中庭型集住体における共同的空間管理に関わる主体間関係	共	2012年9月	日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 F-1分冊（都市計画） pp. 517-518	共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：鈴木悠子、高田光雄、森重幸子、生川慶一郎、森重幸子、土井脩史、宮野順子 ネパール・パタン旧市街地にある中庭は、複数の伝統的住宅に囲まれる共同利用空間であるとともに、住宅の1階部分を通り抜けて街区や他の中庭ともつながる公共的な空間でもある。この中庭空間の管理

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
23. 承継支援の仕組みに対する京町家所有者のニーズ：相続承継問題から見た京町家の保全に関する研究 その2	共	2012年9月	日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 F-1分冊（建築社会システム） pp. 351-352	<p>がどのように行われているのか、町内会や行政、宗教団体等の関係性を明らかにしている。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：サキヤラタ、高田光雄、森重幸子</p> <p>京町家所有者に対して、京町家の引き継ぎを支援する仕組みとして、公的な団体への寄付と、一定期間の寄託の二種類を想定し、ニーズの有無を調べている。その結果、いずれに対しても一定の関心があることを明らかにしている。論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄、鈴江悠子、生川慶一郎</p>
24. 堀川団地の再生におけるまちづくり協議会の設立と展開 市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その3	共	2011年7月	日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 E-2分冊（建築計画） pp. 185-186	<p>築60年の市街地型公的住宅団地である堀川団地の再生に向けて、活動を開始したまちづくり協議会の動きを整理し、主体間関係を把握するとともに、協議会の運営において生じた問題を明らかにし、その要因について考察を行っている。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：生川慶一郎、高田光雄、安枝英俊、森重幸子、土井脩史、桜井俊彦、宮野順子</p>
25. 京都市の中心部における歴史的細街路の変化と課題：膏葉辻子沿いの両側町・新釜座町のまちづくり活動を事例として	共	2011年7月	日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 F-1分冊（都市計画） pp. 341-342	<p>京都市のもっとも繁華な幹線道路の一つである四条通りに隣接する歴史的細街路「膏葉辻子」のまちなみの変化と、膏葉辻子沿いの町のまちづくり活動の流れを調査することにより、都心の歴史的な細街路が抱える課題を明らかにしている。論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄、安枝英俊</p>
26. 生活文化を含めた京町家の公開に関する研究 一般の見学への対応方法を通して	共	2011年7月	日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 E-2分冊（建築計画） pp. 71-72	<p>一般に対する公開事業を行っている京町家を対象に、事業の具体的な内容を調査。価格の設定や予約の有無、案内者としての住まい手の存在や、公開部分と非公開部分の関係性などは事例によって多様であり、各家の事情や考え方に応じて工夫して行われている実態を明らかにしている。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：鈴江悠子、高田光雄、森重幸子、生川慶一郎</p>
27. 堀川団地の再生における法的側面からみる改修可能性の検討 市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その4	共	2011年7月	日本建築学会大会（関東）学術講演梗概集 E-2分冊（建築計画） pp. 187-188	<p>堀川団地の再生にあたって検討されている福祉施設等への転用案を想定し、各住棟において実際に用と変更が可能かどうかを、ストック改修に関連する法規的な側面から検討を行っている。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：宮野順子、高田光雄、安枝英俊、生川慶一郎、森重幸子、土井脩史、桜井俊彦</p>
28. 堀川団地再生に向けた検討課題の整理 市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その1	共	2010年7月	日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集 E-1分冊（建築計画） pp. 61-62	<p>市街地型の公的住宅団地である堀川団地について、団地の歴史を整理した上で、開催されたまちづくり混和会の意見をとりまとめ、再生に当たって考慮すべき条件を整理している。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：垣田悠三子、土井脩史、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊、森重幸子、宮野順子、岡本陽平</p>
29. 歴史的市街地の袋路集中地区における居住の再生：京都市都心部における再建築不可敷地と町家の立地の分析	共	2010年7月	日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集 E-1分冊（建築計画） pp. 29-32	<p>京都市都心4区の細街路沿いの敷地の分布傾向を明らかにし、特に袋路が集中する京都市上京区仁和学区をとりあげ、具体的な立地状況を明らかにしている。さらに、袋路沿いの敷地と町家の立地についても検討し、両者に重複関係があることを明らかにしている。論文全般を担当、著者：森重幸子、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊</p>
30. 各住棟のキャパシティからみた堀川団地の再生の方向性の検討 市街地型の公的住宅団地の再生に関する研究 その2	共	2010年7月	日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集 E-1分冊（建築計画） pp. 63-64	<p>堀川団地は、堀川通り沿いに建つRC造3階建の住棟6棟によって構成される。平面形式等の異なる6棟に対して、耐震性やEV設置の可能性、浴室設置、二戸一化などといった視点から、改修における躯体のキャパシティを検討している。共同研究のため担当部分の抽出は困難、著者：土井脩史、高田光雄、神吉紀世子、安枝英俊、垣田悠三子、森重幸子、宮野順子、岡本陽平</p>
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1. Tキリスト教会新築工事	共	2016年1月	大阪府高槻市	<p>工事種別：新築、用途：キリスト教の教会、構造規模：鉄筋コンクリート造+木造3階建、敷地面積：251.82㎡、建築面積：121.50㎡、延床面積：321.43㎡ 設計者：森重幸子、朽木順綱</p>
2. 「平成の京町家 東山八坂通」新築工事	共	2014年1月	京都府京都市東山区	<p>工事種別：新築、用途：集合住宅、構造規模：木造在来軸組工法 地上2階建 二戸一棟4棟 総戸数8戸、敷地面積：1156.02㎡（隣接する共用庭含）、建築面積：504.77㎡、延床面積：928.71㎡、事業主法：建築基準法第86条一団地認定 区分所有型分譲</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
3. 「バリ・ウブドの家」新築工事	共	2013年8月	インドネシア、バリ州、 ギニャール県ウブド郡	、掲載誌：『日経アーキテクチュア』2014年7月25日号 事業主：株式会社ゼロ・コーポレーション、基本設計：京都大学高田研究室 HA+Gデザインオフィス一級建築士事務所（森重幸子、朽木順綱）、実施設計・施工：株式会社ゼロ・コーポレーション、受賞：2014年度日本不動産学会業績賞、2015年度都市住宅学会業績賞 工事種別：新築、用途：専用住宅、構造規模：鉄筋コンクリート造2階建1棟、鉄筋コンクリート造1階建1棟、敷地面積：825㎡、建築面積：188.28㎡、延床面積：249.08㎡ 設計者：森重幸子、朽木順綱
4. 「深草の町家」改修工事	単	2010年10月	京都府京都市伏見区	工事種別：改修、用途：専用住宅、構造規模：木造伝統構法 地上2階、改修工事範囲床面積：106.50㎡ 業務内容：耐震診断、改修設計、工事監理
5. 「馬町の家」新築工事	共	2008年10月	京都府京都市東山区	工事種別：新築、用途：専用住宅、構造規模：木造在来軸組工法 地上2階、敷地面積：194.73㎡、建築面積：88.07㎡、延床面積：151.91㎡ 設計者：森重幸子、朽木順綱
6. 「チャペル アクティス」新築工事	共	2005年10月	京都府京都市上京区	工事種別：新築、用途：集会場、構造規模：鉄筋コンクリート造 地下1階地上2階、延床面積：459.28㎡、掲載誌：『CASA BRUTAS』12.2005、『THE ARCHITECTURAL REVIEW』JULY.2006 (設計事務所勤務時の担当作品)
7. 「風船（I邸）」新築工事	共	2004年11月	大阪府吹田市	工事種別：新築、用途：専用住宅、構造規模：鉄筋コンクリート造+鉄骨造 地下1階地上3階、延床面積：172.68㎡、掲載誌：『GA HOUSE PROJECT』2004、『MODERN LIVING』NO.165、『hinge』vol.121、『住まい』vol.35 (設計事務所勤務時の担当作品)
8. 「帝塚山の家（K邸）」新築工事	共	2003年12月	大阪府大阪市	工事種別：新築、用途：専用住宅、構造規模：鉄筋コンクリート造 地上3階、延床面積：115.97㎡、掲載誌：『GA HOUSE』84、『COMPACT HOUSES』 (設計事務所勤務時の担当作品)

5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等

--	--	--	--	--

6. 研究費の取得状況

1. 少子高齢化社会に対応した子育て支援住環境システムの構築と実装に関する研究	共	2017年6月～	2017年度科学研究費基盤研究(A)	研究代表者：高田光雄、研究分担者：森重幸子、他10名
2. 京町家の住み継ぎを支援する承継システムに関する研究 所有者の意思を尊重する承継支援型民事信託の試行的実施	共	2014年6月	一般財団法人住総研2014年度研究助成	研究代表者：高田光雄、研究分担者：森重幸子、生川慶一郎
3. 幹線道路に隣接する細街路の都市計画上の課題～「歴史的細街路」の維持保全に向けて～	共	2013年6月	大学コンソーシアム京都2013年度未来の京都創造研究事業	研究代表者：森重幸子、研究分担者：前田昌弘
4. 京都市都心部における「歴史的細街路」の維持保全に関する研究	単	2013年12月	公益財団法人リクシル住生活財団2013年度調査研究助成	
5. 歴史的細街路の保全・再生に向けた制度設計に関する研究	単	2012年5月	2012年度文部科学省科学研究費（奨励研究）	
6. ネパールにおける共同的空間管理システムに関する研究－仏教僧院を起源とする中庭型集住体を対象として	共	2011年6月	一般財団法人住総研2011年度研究助成	研究代表者：サキャラタ、研究分担者：高田光雄、森重幸子

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年5月～現在	芦屋市住宅マスタープラン策定委員会 委員
2. 2017年1月～現在	京都市歴史まちづくり推進会議 委員
3. 2015年4月～現在	日本建築学会 選択可能な市街地環境整備とインナーコミュニティまちづくり小委員会 委員
4. 2014年4月～現在	日本建築学会 コミュニティ居住小委員会 委員
5. 2012年4月～2014年3月	日本建築学会 地域居住小委員会 委員
6. 2010年9月～現在	公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター 専門家（コンサルタント及びコーディネーター）